

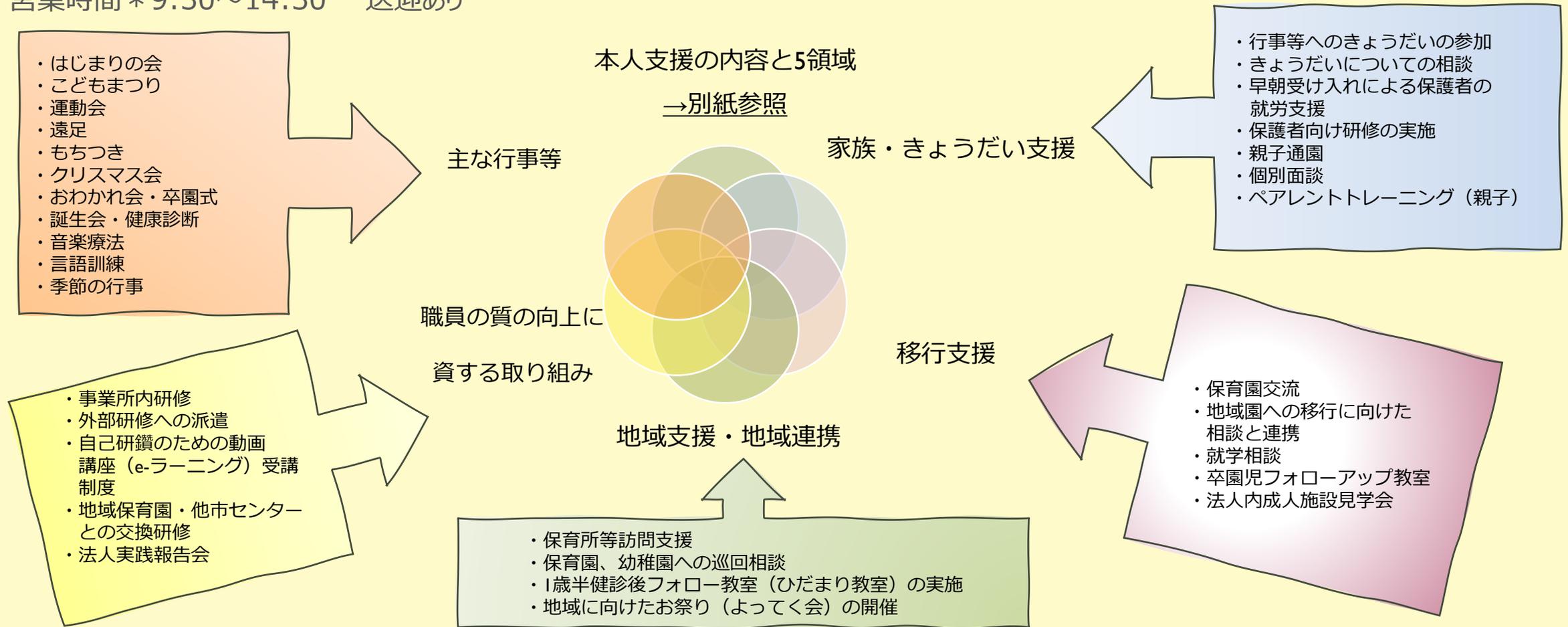
支援プログラム

児童発達支援センター カトレア

“安心と笑顔”の法人理念のもと、「お子さんが心身ともに健やかに育成される環境で」「一人ひとりの能力に応じた自立を目指して」「ご家族に寄り添うこと」を基盤に、支援の工夫をしていきます。

支援方針 * 未就学のお子さんを対象とし、それぞれの年齢、特性、ニーズに合わせた支援を行い、お子さんの心身の発達を促します。

営業時間 * 9:30~14:30 送迎あり



児童発達支援センター「カトレア」5領域とのつながりを明確化した支援内容

| 項目 | 主なねらい |
|--|----------------|
| (ア) 健康・生活 | ①健康状態の把握 |
| | ②生活リズムや生活習慣の形成 |
| | ③基本的生活スキルの獲得 |
| 具体的な支援内容 | |
| <p>①健康状態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家庭と連携し、検温や排泄間隔、食事状況等の確認をします。登降園時に、視診を行います。 ・持病、服薬についての聞き取りを行います。 ・園で流行している疾病について、ご家庭に共有をします。 <p>②生活リズムや生活習慣の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムの確認を行います。必要に応じて生活を整えていくためのアドバイスを行います。 ・嘱託医と連携し、健康診断を行います。生活や身体についての相談を受けることができます。 ・自らの体調に目を向ける基盤を育て、健康に過ごせるようにしていきます。 <p>③基本的生活スキルの獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、発達段階、家族の意向や家庭状況を確認します。 ・本人が理解し、取り組みやすいように、“みてわかる”環境を設定します。 ・自分のものの把握ができるように、マークをつけます。 ・遊びや日常生活の中で必要な習慣が身に付くように、取り組んでいきます。 ・言語聴覚士や嘱託医等と情報共有をして、専門職からの視点も療育に取り入れます。 | |
| 活動内容・留意点 | |
| <p>【身じたく】・自分の持ち物を意識する・身じたくができる、しようとする・身じたくをすることで、生活の見通しを持つ</p> <p>【着脱】・着脱の方法を知らせる・ほめる、見守るなど子どもに合わせた支援をする</p> <p>【食事】・食べることの楽しさを知る・個々に合わせて形状や量を調整する・集中して食事に向かえるように環境を整える</p> <p>【排泄】・トイレの環境に慣れる・トイレで排泄をする・段階を経て取り組む</p> <p>* 身体介助、モデル、手順書等を使い、子どもに合わせた援助をする</p> | |

| 項目 | 主なねらい |
|--|------------------|
| (イ) 運動・感覚 | ①身体能力と運動、動作の機能向上 |
| | ②補助手段の活用 |
| | ③感覚に対するアプローチ |
| 具体的な支援内容 | |
| <p>①身体能力と運動、動作の機能向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合遊具のあそび、体操に取り組み、運動動作の習得、筋力やバランスの維持、強化を図ります。 ・生活の基本動作を繰り返し、習得できるように支援します。 ・あつまりのなかでお口のたいそうに取り組み口の動きを活発にして <p>②補助手段の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢保持のための補助具を使います。 ・足台や手すり、食事時の補助ツールを使い、技術の習得を支援します。 <p>③感覚に対するアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五感で感じる感触あそび、季節のあそびを取り入れ楽しみながら感覚が刺激される取り組みをします。 ・音楽療法、リトミックに触れ、聴覚と動きの連動を経験します。 ・過敏、鈍麻に対して丁寧に対応し、安心して生活できる基盤を探します。 | |
| 活動内容・留意点 | |
| <p>【姿勢】・子どもに合った高さの机やいすに座る・姿勢保持ができるようにする</p> <p>【運動】・サーキット・感覚統合遊具・プール・外あそび・提示の方法を工夫して、遊びこむ</p> <p>【感覚】・スライム・砂あそび・粉あそび・粘土・道具や提示の工夫をする・感覚過敏へのアセスメントと配慮をする</p> | |

| 項目 | 主なねらい |
|--|-----------------------|
| (ウ) 認知・行動 | ①認知の発達と行動の習得 |
| | ②概念形成の習得 |
| | ③対象や外部環境への適切な認知と行動の習得 |
| 具体的な支援内容 | |
| <p>①認知発達と行動の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物、写真、カードを使用し、視覚的にわかるものの検討と提供を行います。 ・見てわかるものと行動が繋がるよう、スケジュールや手順書を提示し行動の練習をします。 <p>②概念形成の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作活動や自立活動に取り組み、物の名前や扱い方の習得を目指します。 ・遊びの中で、色や数、大小、長短、時間間隔に触れる機会を提供します。 <p>③対象や外部環境への適切な認知と行動の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こだわりの原因を丁寧に探り、対応します。 ・安心して楽しく過ごせる場で、許容や挑戦の幅が広がることを目指します。 ・要求や拒否を存分に受け止め、かつ正しい方法で表現できるようPECS（※）を導入します。 ・コミュニケーション機能を持った自傷行為や他害行為への対応を、園全体で検討します。 <p>※絵カード交換式コミュニケーションシステム</p> | |
| 活動内容・留意点 | |
| <p>【自立活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなこと、分かるものから、自分で取り組むことができるものを増やす ・ワークシステムを取り入れる <p>* 日常の様々な場面で、理解のアセスメントをする</p> <p>* 安心してできる環境を取り入れる</p> | |

| 項目 | 主なねらい |
|--|-----------------|
| (エ) 言語・ コミュニケーション | ①言語の理解と表出 |
| | ②気持ちの理解と表出 |
| | ③コミュニケーション能力の向上 |
| 具体的な支援内容 | |
| <p>①言語の理解と表出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に分かるものを提示し、言葉を組み合わせで伝えます。 ・指示ははっきりわかりやすく、端的に伝えます。 ・おしまいのサイン（手拍子3回）を統一して使用し、生活の中で使用します。 <p>②気持ちの理解と表出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを代弁したり状況を言葉で説明したりする中で、自分の気持ちに気が付けるよう関わります。 ・喜怒哀楽の表出ができる環境を整え、気持ちの変化に寄り添います。 <p>③コミュニケーション能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに合わせて、相手に伝わるコミュニケーション方法を教えます。 ・支援者が、子どもの身振りや表情を読み取り、丁寧にフィードバックします。 ・PECSを導入します。 ・遊びや生活の中で、興味のあるものを提供し、共同注視の力を伸ばします。 | |
| 活動内容・留意点 | |
| <p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PECSを取り入れる・言葉だけでなく絵カードやジェスチャーなど、個々に合う方法を検討する ・自分の思いや要求を自発的に相手に伝えようとする・拒否を援助要求を正しく相手に伝えられる | |

| 項目 | 主なねらい |
|--|-------------|
| (オ) 人間関係・社会性 | ①人間関係の形成 |
| | ②仲間づくりと集団参加 |
| | ③自己理解と行動の調整 |
| 具体的な支援内容 | |
| <p>①人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任やお友だちを意識できるよう、写真の掲示や名前呼びを継続して行います。 ・要求をしっかり聞き取り、信頼関係を作ります。 ・手あそび、体操、リトミックなどで身近なモデルの模倣を促します。 <p>②仲間づくりと集団参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味、理解に合わせて活動を組み立てます。 ・興味のある遊びを通して他児の動きに気付いたり、関わったりする経験ができるよう設定をします。 ・大人が仲介したり、モデルを示したりしながら、関わり方を伝えます。 ・見立てあそびやごっこあそび、ルールのあるあそびを、活動に取り入れます。 ・繰り返し経験できる環境を作り、確実な理解につなげます。 <p>③自己理解と行動の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちを受け止めながら、正しい表現方法のモデルを示したり、視覚的に伝えたりします。 ・気持ちを落ち着けることのできる環境設定をします。 ・気持ちのコントロールに必要な代替案を伝えたり、解決方法を子どもとともに探ったりします。 | |
| 活動内容・留意点 | |
| <p>【人間関係】 ・親を意識し、愛着関係を築く・職員との信頼関係を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子通園日・いっしょにやろう ・他児に関心を持ち、一緒に過したり関わろうとする <p>【あそび】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通し、興味関心の幅を広げる・個別あそび・グループあそび・集団あそび | |